

1. 略歴

1981年3月	東京大学文学部第三類フランス語フランス文学専修課程卒業
1981年4月	東京大学大学院人文科学研究科修士課程入学 (仏語仏文学)
1985年4月	東京大学大学院人文科学研究科専攻博士課程進学
1985年9月	パリ第3大学博士課程 (～1989年3月) (フランス文学、フランス政府給費留学生)
1989年4月	東京大学文学部助手
1990年4月	一橋大学法学部専任講師
1993年4月	一橋大学法学部助教授
1997年5月	一橋大学大学院言語社会研究科助教授
2000年4月	東京大学大学院総合科学研究科助教授
2007年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授 現在に至る

2. 主な研究活動

a 専門分野 b 研究課題

フランス・ロマン主義文学、とりわけジェラルド・ド・ネルヴァルの作品が主要な研究対象である。その代表的な作品『東方紀行』を分析し、オリエンタリズムに回収されない異文化体験の諸相を読み取る試みに取り組んでいる。探求の成果を『異国の香り ネルヴァル「東方紀行」論』一卷にまとめることができた。同時に、現代小説や古典作品の翻訳紹介にも力を注ぎ、日本におけるフランス文学受容の活性化に貢献すべく努めてきた。

文学研究と並び、フランス、アジアを中心とする映画にも関心を寄せている。2009-2011年度科学研究費補助金による研究「フランス文学と映画の相関関係についての総合的研究」では、二つの領域間にはたらく創造的な刺激と影響を多面的に明らかにすべく、内外の研究者との交流を深めつつ探索を続けている。

c 主要業績

(1) 著書

共著、斎藤兆史、野崎歓、『英仏文学戦記 もっと愉しむための名作案内』、東京大学出版会、2010年7月、251p. +17p.

単著、野崎歓、『異邦の香り ネルヴァル「東方紀行」論』、講談社、2010年4月、438p.

単著、野崎歓、『フランス小説の扉』、白水社、白水uブックス、2010年11月、286p. (2001年刊の著書の増補新装版)

共編著、管啓次郎・野崎歓編、『ろうそくの炎がささやく言葉』、勁草書房、2011年8月、208p.

(2) 論文

「水に書かれた物語 ジャン・ルノワール『ピクニック』をめぐる」、『映画と文学』アウリオン叢書08、白百合女子大学言語・文学研究センター編、川竹ジョジョアヌ、福田耕介責任編集、2010年12月、p.65-78

「21世紀のフランス文学 資本・越境・記憶」、神戸大学大学院国際文化科学研究科異文化研究交流センター2010年度報告書、2011年3月、p.76-89

«Japanese Readings: The Textual Thread», *Opening Bazin: Postwar Film Theory & It's Afterlife*, edited by Dudley Andrew, Oxford University Press, 2011, p. 324-329.

«Retraduire Stendhal aujourd'hui : *Le Rouge et le noir* dans le contexte japonais», *Réception et créativité : le cas de Stendhal dans la littérature japonaise moderne et contemporaine*, édité par Julie Brock, Peter Lang, 2011, p.65-74

(3) 訳書

ボリス・ヴィアン『うたかたの日々』、光文社古典新訳文庫、2011年9月、388p.

(4) 書評、解説、啓蒙

「エリック・ロメール監督追悼」、読売新聞、2010年1月15日朝刊

「すばる文学カフェ・映画」、「すばる」、集英社、2010年2月号、5月号、8月号、11月号、2011年2月号、8月号、11月号

「批評家発映画批評」、「キネマ旬報」、キネマ旬報社、2010年2月号より2011年1月まで、毎月上旬号に連載

「日仏交流、これからがおもしろい！」野崎敏、Corinne Quentin (対談)、「ふらんす」、白水社、2010年4月号、p.14-17

「わが巨匠、ネルヴァル」、「本」、講談社、2010年5月号、p.26-28

「シネマ万華鏡 『あの夏の子供たち』」、日本経済新聞、2010年5月28日夕刊

「ナンシー・ヒューストン『暗闇の楽器』」、日本経済新聞、2010年6月6日朝刊

「世界文学を旅する」(柴田元幸・沼野充義との鼎談)、「群像」、講談社、2010年7月号、p.208-221

「古人に学ぶ恋の知恵」、東京大学新聞、3614号、2010年7月6日

「カミュ、太陽の一撃」、「ふらんす」、白水社、2010年8月号、p.42-43

「シネマ万華鏡 『彼女が消えた海辺』」、日本経済新聞、2010年9月17日夕刊

『冬の小鳥』の啓示、「Equipe de cinéma」、岩波ホール、n.178、2010年10月、p.6-7

「アムールの教育装置 『英仏文学戦記』の余白に」、「UP」、東京大学出版会、2010年11月号、p.8-13

「これだけは読んでおきたいブックガイド2010 海外文学」野崎敏、鴻巣友季子(対談)、「文藝」、河出書房新社、冬号、p.30-47

『暮らし』をつなぎとめる小説 角田光代『ツリーハウス』、「新潮」、新潮社、2011年1月号、p.298-299

「フランス流愛について」、電通報、2011年1月17日

「朝吹真理子『きことわ』」、日本経済新聞、2011年1月30日朝刊

「シネマ万華鏡 『イギリス国王のスピーチ』」、日本経済新聞、2011年2月25日夕刊

「シネマ万華鏡 『神々と男たち』」、日本経済新聞、2011年3月11日夕刊

「多和田葉子『雪の練習生』」、東京新聞、2011年3月20日朝刊

「時空を超える文学の恵み」(野崎敏・青山七恵対談)、「群像」、講談社、2011年4月号、p.54-65

「旅する文学 時空と言語を渡って」(管啓次郎・野崎敏対談)、「すばる」、集英社、2011年5月号、p.212-228

「シネマトグラフからエクリチュールへ 小説家アンヌ・ヴィアゼムスキー」(アンヌ・ヴィアゼムスキー、ジャン＝クロード・ボネ、堀江敏幸、野崎敏鼎談)、「文學界」、文藝春秋、2011年5月号、p.218-231

「翻訳せよと、彼らはいふ」、「文藝」、河出書房新社、2011年夏号から毎号連載中

「世界の文学 フランス」、東京新聞、2011年5月19日朝刊

「ジョナサン・リテル『慈しみの女神たち』(上・下)」、日本経済新聞、2011年7月10日朝刊

「映画愛と友情の一季節」、「キネマ旬報」、キネマ旬報社、2011年7月下旬号、p.24-27

「シュルレアリスムの何が未知のままか」(齋藤哲也、野崎敏、西谷修、鈴木雅雄の鼎談)、「水声通信」、水声社、34号、2011年8月31日、p.23-60

「父と子 大江健三郎の小説の源泉」、「早稲田文学」第十次第4号、2011年9月、p.260-267

「星野博美『コンニャク屋漂流記』」、「文學界」、文藝春秋、2011年10月号、

「金原ひとみ『マザーズ』」、「新潮」、新潮社、2011年10月号、p.306-307

「真屋和子『プルーベールの空間 ラスキンの美学の向こうに』」、「ラスキン文庫たより」、一般財団法人ラスキン文庫、第61号、2011年10月1日、p.17

「曖昧さの魅惑——『ルルドの泉で』に寄せて」、『ルルドの泉で』パンフレット、新日本映画社/エスパース・サロウ

「魔法のような文芸映画 『風にそよぐ草』礼賛」、「Equipe de Cinéma」、岩波ホール、n.185、2011年12月、p.8-9

「私の3点(文学)」、朝日新聞、2011年12月20日夕刊

(5) 学会発表等

日本フランス語フランス文学会 2010年度春季大会ワークショップ「シュルレアリスムの何が未知のままか」発表、「アンドレ・ブルトンと子ども」、2010年5月29日、早稲田大学

第10回東京大学ホームカミングデイ・シンポジウム「現代文学における『私』をめぐる」パネリスト、2010年10月29日、東京大学文学部

(6) 受賞

国内、野崎敏、読売文学賞(研究・翻訳賞)、「異邦の香り——ネルヴァル『東方紀行』論」、読売新聞社、2011.2.21

3. 主な社会活動

(1) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

小西財団、日仏翻訳文学賞選考委員、2010.1～